

企画展

「品川地中探検記」

期 間	平成 26 年 2 月 8 日（土）～3 月 23 日（日）	38 日間
会 場	1 階ロビー 第二展示室 小講堂	
入館者数	1,571 名	

〔開催趣旨〕

品川区には平成 26 年時点で 24 ヶ所の遺跡が確認されている。区内で最も著名な遺跡は大森貝塚であり、日本考古学発祥の地と称される学史上きわめて重要な遺跡である。その他にも品川区には縄文時代前期の居木橋遺跡、弥生時代後期の池田山北遺跡、近世の大名屋敷である仙台坂遺跡などが存在しているが、あまり知られていない。

本展示では、平成 25 年までに発掘調査で出土した遺物を中心に展示し、品川区の原始古代から現在までどのような人々の営みがあったのかを紹介した。また、かつて品川に在住していて考古学に造詣が深く、平成 26 年に没後 80 年を迎える小説家の江見水蔭に関連する展示もおこなった。

〔展示概要〕

① 品川の遺跡

- (1) 縄文時代の品川
- (2) 弥生時代の品川
- (3) 古墳時代の品川
- (4) 古代の品川
- (5) 中世の品川
- (6) 近世の品川

② 没後 80 年江見水蔭展

- (1) 江見水蔭の生涯
- (2) 江見水蔭と考古学
- (3) 江見水蔭が辿った遺跡 - 南関東を中心に -
- (4) 江見水蔭が住んでいた頃の品川

③ その他

出土遺物を触る・拓本体験などの考古学体験ブース

〔発行図書〕

小冊子『品川地中探検記』（A4 28 頁）